

PTA

やまがた

第44号

令和2年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 佐藤 博之

山形市十日町1丁目6番6号

県保健福祉センター内

TEL 023(631)0055 FAX 023(635)4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『子どもを愛し、地域を愛し、
互いを信頼し合うPTA』

～織り成す縁に感謝 子どもたちと一緒に今を生きる～

子どもを愛し、地域を愛し、 互いを信頼し合うPTA

「織り成す縁に感謝」

子どもたちと一緒に今を生きる」

山形県PTA連合会会長 佐藤 博之



本会の運営・活動に対し、常日頃から温かいご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

また、それぞれの郡・市PTA、そして各学校、地域社会において子どもたちの健全育成のためにご尽力をいただき重ねて御礼申し上げますとともに敬意を表します。

今年度も標記のスローガンのもと様々な活動を展開して参りました。

特に私たちが最も大切にしている研修活動の集大成として東北ブロック研究大会 南陽・東置賜大会が開催されました。東北ブロックPTA協議会や大会を主管された東置賜地区PTA連合会及び実行委員会のご尽力をはじめ、東北各県から遠路ご参加くださった会員の皆様のご協力をいただき、七つの分科会やデヴィ・スカルノ氏の講演など充実した学びの場となりましたことに改めて御礼申し上げます。

さて、平成三十一年四月に働き方改革関連法が改正され、文科省でも「学校における働き方改革」の取り組みが進められています。関連しスポート庁でも「部活動におけるガイドライン」が策定され、これらを受けて県も市町村も「教員の働き方改

革プロジェクトチーム」を中心に教員の業務削減・見直しに向けた課題の検討が行われています。学校における働き方改革の実現により、教員の業務負担が軽減され、児童生徒と向き合う時間が十分に確保され、児童生徒に真に必要な総合的な指導を

持続的に行われることを目的としています。山形県教育委員会・山形県高等学校PTA連合会との合同教育懇談会ではこのことをテーマとして取り上げPTAとしての役割を話し合いました。その中で「新たな問題への新たな対策は社会全体に求められている。」というお話がありました。PTAは家庭教育の責任者としての親と、学校教育の専門家としての教師が互いに協力・学習し、すべての子どもたちの健やかな成長のために活動する団体です。そして、地域の一員であり社会の一員でもあります。地域と一緒に考えて、子どもたちの健全育成につながるよう、この改革の実現に向けた理解と協力が不可欠であると感じます。また、新学習指導要領も同時進行で来年度から小学校から順次完全実施されます。子どもたちの笑顔や明るい未来のために何ができるかを考え、様々

な課題解決のため時宜に合った活動を展開することが重要であると思っています。

子どもたちを取り巻く社会情勢や教育環境の変化は、私たち保護者が思っている以上に大きく、さらに加速しています。その中で、PTAとして必要なことは、「教育の基盤は家庭にある」ことを、また、家庭・学校・地域を結ぶ架け橋としての役割と責務の重要性を自覚し、親自身の成長をはかり研修を深めることだと思います。令和四年度には日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます。分科会を各郡・市Pで担当し、特色ある山形県らしい大会を目指して、実行委員会や全国支援会が立ち上がり、いよいよ本格的な準備が始まりました。全国大会の成功のために、そして、子どもたちの健全育成のためには皆様からのご協力が必要不可欠であります。今後もPTA活動をますます充実させながら一緒に取り組んで参りましょう。

最後に、山形県教育委員会をはじめ関係各位の皆様からの温かいご支援、ご協力に感謝申し上げますと致します。

学校と保護者が連携した子どもの心の醸成



山形大学附属中学校
校長

小 関 広 明

子どもの健全育成に、学校と保護者の連携は欠かすことはできません。特に本校の場合、大学附属の学校であるという性格上、保護者による支えは必須のものといえます。今年度、本校でも、県P連の「子どもを愛し地域を愛し 互いを信頼し合うPTA」というスローガンを踏まえながら様々な活動を行ってまいりました。その中から二つの取り組みを紹介したいと思います。

一つは、PTA主催によるネットトラブルの防止に係る研修会の開催です。スマホ等情報端末の普及により、利便性が増した一方で、様々なトラブルが発生しています。学校でも警察の生活安全課やスクールカウンセラーの協力を得ながら指導を行っておりますが、情報端末機器の使用そのものは、家庭に戻ってからのことになるので保護者の理解を得た、より緊密な連携が必要になります。そんな中、今年度はPTAからの申し出により、中央から講師を招聘した研修会を十二月に開催する

ことになりました。保護者自身が危機感を持って企画し呼びかけてくださったこともあり、多くの参加を得ることができました。講話後の質問も多数出されるなど、中身の濃い研修となりました。こうした保護者による主体的な取り組みは、今後大切にしていきたいと思っています。

もう一つは、母親委員会による「制服リユース会」の開催です。これは、使用しなくなった制服やYシャツ、運動着、柔道着等の提供を在校生や卒業生に呼びかけ、在校生や入学予定の小学生の保護者に格安な値段で販売するという企画です。特に、卒業生への連絡にあたっては、一人一人に依頼状を送付するなど、多大なるご尽力をいただきました。今年度は九月と二月に開催を企画しております。すでに終了した九月の開催は大盛況となり、多数の皆さんにご来場いただきました。収益金は、全額『山新愛の事業団』に寄付することとなっております。こうした取り組みは、子どもたちの物を大切にする気持ちや他人を思いやる心の醸成にもつながるものと思います。

これからも、このような活動を一層充実させ、学校と保護者が連携し、子どもたちの健全育成を目指していきたいと思います。

第51回日本PTA東北ブロック研究大会 第71回山形県PTA研修大会開催のお礼

実行委員長 嶋貫 憲仁

半世紀の歴史と伝統を受け継ぐ日本PTA東北ブロック研究大会の第五十一回南陽・東置賜大会が、山形県内PTA関係の皆様が多なるご支援とご協力により、昨年九月に無事に開催できましたことに、衷心より感謝を申し上げます。

毎年五月五日の「こどもの日」に、総務省統計局が公表している推計によれば、日本全体の子ども数（十五歳未満人口）は、平成元年の二、三二〇万人に対して、二〇一九年は一、五三三万人となり、平成の三十年間で実に約八百万人の子ども数が減少したことになります。このような急速な少子高齢化という社会構造の変化に加え、進学や卒業とともに、若い世代が生まれ育ったふるさとを離れるという深刻な人口流出を抱える地方において、私たちは、かけがえのないふるさとで、未来を拓く地域の宝である子どもたちを、いかにして育むことができるかを考えるため、「つなげよう 家庭・学校・地域を 親も成長しよう 子どもと共に」ふるさととは国の本なり、育もう 地域の宝を」をスローガンに今大会を開催しました。

令和の新たな時代の幕開けとなったこのたびの大会で、あらためて、社会教育関係団体であるPTAが、何を期待され、何ができるか、どうあるべきかを、東北各地のPTA会員の皆様と共に学び、互いに分かち、未来への一歩を南陽・東置賜地区から発信できたことを、大変光栄に思います。

子どもたちにふるさとをつなぐことは、先人がその地で育んできた歴史や伝統、文化を、現代の私たちが受け継ぎ将来に伝えることです。複雑多様化する社会の中で、PTAを取り巻く環境も、その内外で変化が取り沙汰される昨今ですが、PTAの目的は変わりません。これからも、県や郡市を越えて語り、学びあい、活動を通して、子どもたちの成長と未来を支えるPTAを目指してまいります。

結びに、本大会の開催にあたり、特段のお力添えと多大なるご支援を賜りましたすべての皆様に、あらためて感謝を申し上げますとともに、山形県のPTA組織並びに関係の皆様のみならず、ご発展をお祈りいたします。実行委員会のお礼の挨拶といたします。

ごあいさつ



山形県PTA母親委員会
委員長

高見佳澄

山形県PTA連合会母親委員会の活動に、ご理解、ご協力いただきありがとうございます。また、各郡・市PTAの母親委員会におかれましても、活発に活動していただき感謝申し上げます。

今年度も「いのちの尊さ大切さ」のテーマのもと、子どもたちの様子や、各郡・市PTAの母親委員会の活動について情報交換を行いました。また、地元山形県で開催した第五十一回日本PTA東北ブロック研究大会南陽・東置賜大会に視察研修という形で参加させていただき、学び得た情報を共有し更なる気づきを得ることができました。

昨年度話し合った母親委員会の存在意義や必要性を、新たな趣旨・会則

として整え母親委員会をスタートしたところです。男女平等がさげばれ、母親委員会は時代遅れではないかとの意見もありますが、山形県はまだまだお父さん方がPTAで活躍してくださる県です。そのため、母親委員会は、本会を子どもにとって一番身近な存在である「お母さんの想い」を聞くことができる大切な場と捉え、母親同士のネットワークの素晴らしいさや母親としての細やかな心づかいなどの利点を生かし、父親のみならず子育てに関わる方々と「子どもたちの為に何ができるのか」共に考え、活動に繋げていきたいと思っています。

どんなに時代が変わろうとも、子どもに必要なのは、私たちの無償の愛とスキンシップということに変わりはないと思います。また、子どもたちの抱えている課題を解決するには、親同士のつながりが重要だと思います。子どもとの「かかわり」と親同士の「つながり」を大切にしながら、母親委員会は活動してまいります。

各地区の活動報告

《山形市》

- ・テーマ「いのちの尊さ大切さ」
～かかわる喜びつながる心～に沿った内容で活動
- ・定例母親委員会3回（活動方針・情報交換）
- ・拡大母親委員会1回
研修：「いのちの大切さ学習会」
(県P親学補助事業利用)

講師：田澤雄作氏

(NPO法人ワンダーポケット理事長)

- ・“親学”家庭教育視察研修（山形県立図書館視察）
- ・母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No24発行

《上市市》

- ・母親委員会1回（情報交換等）
- ・母親委員会主催研修会1回
講師：後藤敬子氏（酒田市健康課助産師）
※台風のため中止
（各校で「おさがり会」の実施や「ノーマメディア」「アウトメディア」の取組を行っている）

《天童・東村山地区》

- ・母親委員会総会
- ・母の集い（10月12日）
講演：「ゲーム・ネットの時間はどうしたら減らせるか」
講師：杉山宏行氏
(消費者市民の道しるべ実行委員会会長)
- ・「母親委員会だより」発行

《西村山》

- ・定例母親委員会3回（協議・研修・懇親会）
- ・代表委員会2回（企画・運営）

《北村山》

- 北村山研究大会への協力 ※市・町Pごとの活動あり
- ・村山市P：読み聞かせ／おたより発行

- ・尾花沢市P：委員会／おたより発行
- ・大石田町P：母親交流会／制服リサイクル／読み聞かせ／おたより「母親伝言板」発行

- ・東根市P：組織なし

《最上地区》

- ・地区母親委員会1回（講演・演習）
- ・代表母親委員会研修及び情報交換会2回
- ・母親委員会だより「かあちゃんほっとらいん」2月発行

《米沢市》

- ・定例母親委員会2回（情報交換）

《東置賜地区》

- ・地区P代表母親委員1名が県P母親委員会に出席しています。

《西置賜地区》

- ・地区母親委員会1回
- ・「母親委員会だより」発行
- ・地区P交流会参加協力

《鶴岡市》

- ・母親委員会1回（協議・情報交換）
- ・鶴岡市P連研修大会・教育懇談会への参加

《酒田飽海》

- ・母親委員会（情報交換・講演会）
講演：「家族みんなで楽しむ家読」
講師：本間俊美氏（読書アドバイザー）
- ・酒田飽海PTA研修大会への協力



テーマ「これからの部活動とPTAの役割」

学校教育の一環として行われる部活動は、同好の生徒が活動を通して交流したり、より高い水準の技能や表現に挑戦したりして、豊かな学校生活を経験し、心身の健康の増進に効果的な活動です。また、異年齢との交流の中で生徒同士や教員と生徒等との好ましい人間関係の構築を図るとともに学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資する等、生徒の多様な学びの場として、大きな教育的意義を持っています。

しかしながら、近年、生徒を取り巻く社会・経済の変化等により教育等に関する課題が複雑化・多様化し、学校や教師だけでは解決することができない課題が増えてきており、少子化に伴う運営体制の脆弱、過度な練習による生徒の身体的・精神的負担、学校における働き方改革等多くの課題があります。

このような観点に立ち、部活動の在り方を見直し、生徒のバランスの取れた生活や健やかな成長をはかるため、このたび山形県における部活動の在り方に関する方針が策定されました。（運動部活動に関しては、昨年度）

部活動方針の背景とその目的、これからの部活動の方向性について研修し、方針が出される以前と現時点の部活動の変化やこれからの部活動とPTAとの関わりについて考えます。

〈話題提供〉 山形県教育庁スポーツ保健課 課長補佐 村上周市 氏

方針の目的 ◎生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築

◎教員の働き方改革の推進

- | | | |
|--|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な運営のための体制整備 2. 合理的かつ効率的・効果的な活動の推進のための取り組み 3. 適切な運動部活動の運営 4. 運動部活動における事故防止 5. 生徒の多様なニーズに応じた活動のための体制整備 6. 学校単位で参加する大会等の見直し | } | <ul style="list-style-type: none"> ・外部人材の確保 ・部活動指導員を令和2年度から全学校に配置 ・活動時間を守り週休日を確保 ・夜練やクラブは方針に添った範囲で ・合同部活動、拠点校の体制整備 |
|--|---|---|

など

※部活動を地域におろし、受益者負担「総合地域型スポーツクラブ」や全年齢を対象にした「スポ少」など多様な考え方がある。学校や地域の実態に応じた地域スポーツ団体との連携、事業者の活用によるスポーツ環境の整備等が課題である。

上記の話題提供をうけ5つのグループに分かれ、それぞれに教育委員会の方も参加し現状や課題等意見交換が行われた。

〈PTAとしてどのような取り組みができるか〉

- ⇒子どもの事・部活動の事に関心を持つ。PTA研修会のテーマに揚げ、啓発活動を展開する。
- ⇒保護者会の話し合いを重ねることで部活動に対する視点を共通理解に変えていく機会を設ける。
- ⇒子どもの部活に対する夢や安全を見守る。地域の外部指導員の活用。
- ⇒部活動をクラブ活動に移行する。生徒・保護者・指導者で熱量が違うため他者を許容する意識改革。

〈まとめ〉

他県では、地区総体を実施しないなど、参加する大会を精査し部活動の在り方を大きく変えたところもあり、これまでの私の考え方と全く別の局面を迎えていると感じました。生徒・保護者・指導者が山形県の部活動の方向性・在り方に関する方針を理解し、生徒の健やかな成長を支える山形県らしい「輪」ができるように、個々に関心を持つ事が大切な一歩だと思いました。

文責 山形県PTA連合会理事 菅原美穂

親子で読書 深める絆

～本を読む子は かならず伸びる～



山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子どもの心が豊かになることを願い、運動を推進しています。

親子読書・地域の活動

NOゲーム・YES読書デイ活動

山市立宮川小学校PTA

宮川小学校では、本年度PTA重点活動、「NOゲーム・YES読書デイ」を推進しております。ゲームなどを我慢する日を決め、親子での読書や語らいなどを通し、コミュニケーションを豊かにする趣旨の活動です。実施の状況を知るために、取組カードを配布し、毎月担任の先生への提出を義務づけしております。うまく出来なかった場合などは、学級懇談会などにおいて、子どもの様子を語り合います。

「NOゲーム・YES読書デイ」を実施するには必然的に親も同じく読書を心がけるようになり、感想を話したり、コミュニケーションが活発になって、子どもの意外な内面が見えた、などの感想がありました。まだ将来の夢、目標も定まっていない子どもたちには、親子読書を通して大いに参考になるのではないのでしょうか。

私たち保護者も、仕事などにより、時間に流される日々が多いと思いますが、親子読書を通して、子どもと一緒にスキルアップしていけたら幸いです。

図書委員会とPTAが協働した読書活動

天童市立第二中学校PTA

天童二中では朝の活動に朝読書を取り入れて十年余りになる。生徒は毎日、登校するとそれぞれが準備した本で読書をしている。そんな中、今年度、生徒会図書委員長から、より有意義な読書活動にしていくなために、次のような提案があった。

○提案

生徒が読んでいる本のポップを作って図書室で紹介するだけでなく、先生方や保護者からも読んでほしい本を紹介してもいい、それを図書だよりで紹介したり、その本が図書室にあるときは〃〃〃先生のお薦め〃〃〃さんのお薦め〃としてポップで紹介したりする。



生徒が作成したポップ

○保護者の感想

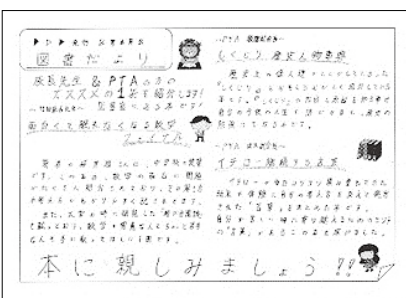
【生徒会活動への協力】

生徒から「お薦めの本の紹介」の依頼を受け、いろいろなことを考え、

悩みながら決めました。おかげで、親子で本の内容について話をしたり、感想を伝え合ったりすることができ、とても貴重な機会となりました。

PTA会長 五十嵐彰宏

図書だより



親子で楽しむ「家族読書」～家庭読書の習慣化を目指して～

東根市立長瀬小学校

本校では、秋の読書まつりに合わせて、家族読書を行っています。お家の方と一緒に本を読み、お互いに感想を交流することを通して、もっと本を読んでみようという意欲付け



となったり、今後の家庭読書が習慣化したりすることを目指し取り組みんでいます。

○家族読書カードの活用

楽しく家族読書ができるようにカードを活用しています。カードには読んだ本の挿絵や児童、保護者の感想を書く欄があります。カードは図書室前に全校掲示します。



○『夜のとしょかん』の実施

親子読書カードに書く本を選ぶために、学校図書館を夜に開放します。親子で本を選んだり、読み聞かせをしたりと秋の夜長をゆっくり過ごしています。



○家族読書にお勧めの本の紹介

読み聞かせボランティア「ききみみずきん」さんに家族読書にお勧めの本を紹介してもらい、本を選ぶ参考にしています。



○保護者の方から

・私も小さいころ、この本が大好きだったのでもって懐かしかったし、この本を選んでくれてうれしかった。

・毎年子どもを選ぶ本を読んで、成長を感じる。

・（本の内容から）人間にとって何が必要かを一緒に考える時間ができた。

読書で育む地域、家庭、心

小国町立小国小学校

○「図書館へ行こう！」

ボランティアサークル「トライあんぐる」の取り組み



たくさんの子どもにも図書館に足を運んでもらいたい、そんな思いで始まった取り組みです。本との出会いにとどまらず、季節や人と関わる楽しさを知ってほしいと活動しています。

○「読み聞かせ、昔語り」

朝の時間を活用

地域の方から朝の時間を活用して読み聞かせや昔語りをしていたんでいます。子どもの琴線に触れる本

を読み聞かせいただいたり、地域に伝わる昔話を語っていただいています。

○「本でつなぐ」

保小、家庭をつなぐ読育推進司

書の取り組み

小国小には読育推進司書が配置されています。小学校の図書室経営に加え、保育園の読書環境整備にも力を入れています。



「小さな子が手に取りそうな本は何か」「保護者が園児に読み聞かせしやすい本は何か」そんな視点で家庭読書の普及に努めています。

読み聞かせ「リプル」、親子読書、

「図書館応援団」

庄内町立余目第三小学校



本校では、保護者と地域のボランティア「リプル」による読み聞かせを年十四回行っています。昨年度からPTA親子読書委員の方からも

読み聞かせに参加していただいています。ボランティアの方々の子どもたちへの思いのつまった選本、学習に関連させた選本で読み聞かせを行っており、朝の十分の読み聞かせを子どもたちは楽しみにしています。PTA親子読書委員会では、「絵本を通して親子のふれ合いを深め、本好きな子どもに導く」というねらいで、読み聞かせと親子で同じ本を読んで感想をまとめる活動を行っています。

また、地域ボランティア、親子読書委員、保護者の方のご協力で図書館整備「せいが図書館応援団」活動も行っています。図書館・学習センターの環境整備や読書祭りのお手伝い（しおり作成）をしていただいています。保護者・地域と連携しながら読書を通して子どもたちの心を育み、学びの力を育てることを目指しています。

本の題名	月	日	読者の感想を一言で書きます。
さんしやう たろう	10	15	おもしろい本が読めた。
さんしやう じやう	10	16	おもしろい本が読めた。
2	〇〇	〇〇	
3	〇〇	〇〇	
4	〇〇	〇〇	
5	〇〇	〇〇	
6	〇〇	〇〇	



親子読書カードと感想

学校と地域を繋ぎ

豊かな学びを育むPTA

大江町立本郷東小学校PTA会長 鈴木 憲

一、はじめに

本校の学区は町全体の九割を占め、平成二十五年度までに五つの小学校が一つになり、現在の本郷東小学校となった。

朝日連峰を源流とする月布川の清流沿いに多くの集落があり、西山杉の生産やりんごやラフランス、伝統的な青芋も栽培されている。物的・人的な協力を惜しまない地域である。令和元年度の児童数は一〇五名である。

後の五月と、年度末二月に開催。PTA活動に対する助言と協力をいただき、地域と一体となった活動を展開している。

三、特徴的な活動

(一) メディアコントロールの推進

① 親子で学ぶメディアコントロール講座

学習参観の折に、PTA研修会として実施。平成三十年度は「笑顔をうばう長時間のビデオ・ゲーム・スマホ」講師・田澤雄作氏。令和元年度は「メディア以外の魅力的な環境づくり」講師・金澤和子氏。

② 親子でアウトメディアチャレンジ
年二回チャレンジ期間を設け、各家庭で実践。目標は各家庭で設定し、家庭の実態に合わせた取組みを展開。

③ アウトメディアのための体験活動
「メディア以外の遊び方が分からない」という意見から、あやとり、お手玉、けん玉、将棋、折り紙など

の体験活動「だがしや楽校」を開催。また、母親委員会と町食生活改善推進協議会が連携し、親子食育講座・調理実習「親子でクッキング」を開催。④ アウトメディアのための読書活動
母親委員会主催で、「我が家のおすめの一冊」POP展を町立図書館で開催。親子読書の推進や地域への発信のために親子で作成した全家庭のPOPを展示。

(二) 協働活動の推進

① 地域学習の支援

三年生「リンゴの学習」、四年生「森の学習」、五年生「お米の学習」、六年生「青芋の学習」。それぞれの活動において、会員OBが講師となり学習を支えている。PTA学年行事とも連携している。

② 自然体験学習の支援

三・四年生は、地元の月布川で「川の楽校」という活動を行っている。安全確保のためにPTA会員が活躍している。「スキー教室」においても指導はもちろんのこと、リフトの乗り降りの安全確保など、毎年多くの会員から協力をいただいている。

四、成果と課題

○ 豊かな学びを育む生活環境の充実

家庭や地域の教育力が高く、子どもたちは温かで落ち着いた環境の中で学びを深めることができている。

○ 自然や地域の人々との関わりを支援し郷土愛を醸成

PTAが学校と地域をつなぐ核となり、人と人とのかわり合いや、支え合いという行為が子どもたちの心に刻まれて、ふるさと大江町が大好きな子どもたちを育てている。

○ 主体的な取り組みで学校における働き方改革を支援

主体的な取り組みは、先輩方から脈々と引き継がれている伝統である。その結果、教職員への負担が少ない活動ができている。

○ PTAとして、学校と地域がよりWin・Winな方策を考える

学校における働き方改革や地域の人たちの生きがいづくりへとつながっていくために、PTA全体として、あるいは会員個人として学校と地域をつなぐ接点となり、様々な教育活動を支援していくことが必要である。

○ 学校支援、見守り、環境整備のボランティアの更なる広がり充実

地域学校協働活動の充実のため、PTAとしての支援とともに、地域人材の厚みを増したりコーディネートしたりすることにも努力していきたい。



一、はじめに

本校は、庄内平野中央部の庄内町余目地区に位置し、学級数が十、全校児童二〇三名の中規模校であり、今年で創立五十四年目を迎える歴史と伝統ある学校である。

PTA活動については、全保護者と教職員が構成員となり事務局を中心として四つの委員会（地域安全委員会・保健体育委員会・広報委員会・学年委員会）を組織して具体的な活動を展開している。

二、特色ある取組みについて

○「笑顔で過ごせる生活習慣をつくる」

重点活動スローガンを推進するために、以下の二点を具体的な活動としている。

（一）メディア時間の自己コントロール力

小学校の六年間をどのように生活

するかで将来の生活習慣に大きく影響を及ぼす。下校後から就寝までの

限られた時間を有意義に過ごすためにも、メディアとの関わり方は非常に重要だと捉えている。テレビや動画等の視聴時間については、低学年は保護者が決めた時間を守ることを心掛ける。高学年は、日ごろの生活の中で自分が視聴できる時間を導き出し、その時間を自分でコントロールできるように各家庭で取組むこととしている。

（二）きれいな言葉づかい

動画等で使われている相手を非難するような強い言葉を、児童の会話で耳にすることがある。このような言葉は日常生活では使ってほしくない言葉だと保護者と一緒に認識し、実際の会話で使われた場合相手がいかなる気持ちになるのかを親子で考える時間を作っていく。学校でも家庭でも励みになる言葉、温かい気

優良PTA文部科学大臣表彰

児童の頑張りを応援し、 成長を後押しするPTA活動

庄内町立余目第二小学校父母と教師の会会長

齋藤 慎一郎

持ちになれる言葉について考え、それを

○保護者による絵本の読み聞かせ

朝読書の時間を活用し、各教室へと保護者が外向き読み聞かせを実施している。取組み内容の周知を積極的に行った結果、十五名程度の保護者から協力が得られた。その結果、一学級あたり数名の保護者を配置することができ、初の試みとなる大型絵本を読み聞かせることができた。

保護者が協力して読み聞かせを行うことで、読み手と聞き手の交流が図られ、児童の本に対する興味や聞く力を育てることもつながっている。

○パパママ亭の来店

十一月上旬に「二小まつり」（文化祭）を開催している。この日は親と子が一緒に過ごす日と位置づけ、学校から親子が一緒に下校し、学区公民館で昼食を共にする活動を実施している。そのときに、保護者が昼食の配膳やわたあめ等のふるまいを屋台形式で運営している。ほぼ全ての児童、保護者が参加することで親子のふれ合いや地域住民との交流に大きく寄与している。

○親子ドッジボール大会

土曜日の授業参観日に合わせ、親と子が対戦するドッジボール大会を開催している。大変好評な企画であ

り、非常に熱心に取組む児童が多く見受けられた。今年度は延べ五百名以上の参加があり、保護者からも関心度の高い、PTA活動を代表する事業となっている。

三、成果と今後の方向性

事務局員を中心に保護者が主体的に運営する体制が整っており、生活習慣づくり、明るい挨拶、自立を促す交流活動が活発に行われている。前年度踏襲で終わらぬよう、現状の把握および新たな視点を加えて次年度の重点活動を計画・立案している。保護者同士の横のつながりも非常に緊密で、事業を活性化させる大きな要因となっている。

一方で、児童の減少による構成員の減少に伴い、PTA活動のあり方の見直しを進めている。事務局等の会議数の精選、PTA総会の平日開催を実施する等、保護者と教職員の負担軽減を図ることができた。

メディアとの関わり方については、小学校生活の間に適切な付き合い方を習得することが非常に大切であると位置づけている。全家庭からメディアが児童に及ぼす影響を認識してもらうために、学校と家庭が一体となり、効果的に取組める活動内容を検討していきたい。

一、はじめに

本校は山形市松波にあり県庁の東側に位置します。昭和五十四年四月一日に、旧山形市立第一中学校と山形市立東沢中学校が統合し、今年度で創立四十周年を迎えました。PTA組織は正副PTA会長の他各学年から幹事、監事、五つの専門部から構成されております。

二、一中生が愛する取り組み

一中生には愛する十の取り組みがあります。①希望の鐘、②一中のちの日、③さわやか読書、④一中賛歌、⑤生活ノート「あゆみ」、⑥体力別遠足、⑦一中ラーニングスピリット、⑧FF体育祭・合唱コンクール、⑨一中生の誓い、⑩ボランティア活動。山一中には生徒会が独自にスローガンを設定し、十の取り組みを生徒会主体で行います。生徒の自主性を育み、考え実行する素地が出来ます。

また山一中は山の麓に位置するところから連峰の精神という考えがあります。山はそれぞれの個性をもち一つ一つが天に向かってそびえたっています。それらの

山々は決して孤立しているのではなく、がっちり肩を組み、麓は一つになって連峰を形作っています。一中生は連峰のように一人一人が個性をもち、自己を高め、そして決して孤立せず互いを高め合いながら一つのまとまり、つまり一中をみんなで作りに上げています。そういう考えのもと、生徒たちの自主性を尊重し、生徒たちをサポートするPTA活動に

「いのち」を大切にする心を育て、自己有用感を高める。二、互いの個性を尊重し、共に伸びようとする力を養う。三、夢や目標を持ち、主体的に生き方を考える力を養う。この三か条に基づき、PTA独自のネットモラル研修会や将来の指針になるべくPTA会員の数名から、自分の職業を選ぶにいたった理由やこれから進むべき道筋について話をもらっ

を一中から地域へ」ということで、体に何らかの障害のある方が身に着けるヘルプマークに対し積極的に手助けするための独自のワッペン「ONマーク」を作成し積極的に手助けすることを今年度始めました。このような地域貢献活動を通し、将来山形を離れ、日本の国を先頭だつて動かす人間に成長しても地域に育てて頂いた恩を忘れず、将来山形を地域を愛し、誇りに思う人間に育つて欲しいと思います。

優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰

ふるさとに誇りをもち学び続ける人間の育成 「スローガン」限りなき前進めざせ一中生

山形市立第一中学校PTA会長 佐藤 竜 太

注力しております。

三、PTAテーマ

『豊かな心の醸成及び令をもって和をなす人間の育成』というテーマのもと、生徒たちの心の教育や将来を見据えた職業講話を実施しております。学校教育の一つに、いのちの教育というものがあります。一、

てます。中学生はまだまだ若く道に迷うことも多々あり、そういう道標になる活動をしております。

四、地域貢献活動

山一中では定期的に地域の特老等に出向き掃除をしたり施設の方々と触れ合ったりしております。また、生徒会独自の活動に「思いやりの心

五、最後に

平成三十年度に山一中主管のもと行われた山形市PTA連合会研修大会では、そういった一中の熱いPTAの皆様の活躍により、多くの学び気づきを与えて頂きました。その後の研修大会にも大いに刺激となる大会となりました。このような活動が認められ、この度受賞しました日本PTA全国協議会会長表彰はとても荣誉あることであり、今後のPTA活動の更なる励みとなりました。今後益々のPTA活動の発展を願い、PTAの皆様の益々のご活躍期待しております。

この度、令和元年度「優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰」の受賞に際し、これまでご尽力された諸先輩方や地域のみなさま、そして日々子どもたちを見守ってくださる教職員のみなさまに心から感謝申し上げます。

記念すべき令和初の受賞をいただき、これからもお一層学校の発展のために行動していく所存でございます。

八向中学校は新庄市の南西部に位置し、最上川の流れる本合海地区と、陸羽西線の通る升形地区で形成されています。

小規模校ですが、豊かな自然環境の元、生徒たちはのびのびと学校生活を送っており、また保護者の皆様にも積極的にPTA活動に参加いただいております。

本校のPTAは、子どもたちの健全育成と地域ぐるみの子育てを目指し、「八向の子どもは九年間で育てる」をスローガンに掲げ、生活指導部・環境部・広報部・母親委員会の四つの部会と各学年部会で構成され、八向中学校区の二つの小学校と、中一貫教育推進連絡協議会や三校PTA連絡協議会を組織しており、学

区内の各団体との連携も活発に行われています。

ここで、各部会の活動を紹介させていただきます。

「生活指導部」は、毎月初めと第三水曜日に街頭に立ち、安全指導を兼ねたあいさつ運動を行っています。第三水曜日のあいさつ運動については「すいすいあいさつデー」とし、八向中学校区の本合海小、升形小と

協力して活動に取り組んでいます。

「広報部」は年に二回、PTA広報紙「八向平」を発行しています。広報部員が取材、写真撮影、原稿依頼、編集作業などを行い、学校行事やPTA活動について、広報紙を通して地区民全世帯に周知を行っています。

「母親委員会」は、読み聞かせを各学年一回ずつ年間三回行い、その

セーブメディア運動、生活リズム確立等の共通実践項目を設定し活動しています。三校PTA共同の取り組みとして期間を設定して、生活リズム調査と、テレビ・ゲーム・ネット等各メディアの使用時間を抑制する取り組みを行っています。

また十一月に開催される市民音楽祭に、学区内三校の児童生徒と、PTA、地域の方で合唱団を結成して参加し、合唱を披露しています。

さらに三校PTA教育後援会を年一回開催しています。近年はSNS等の適切な利用に関する講話をいただくことが多かったのですが、平成三十年度はモンテディオ山形と株式会社明治から講師を招き、「アスリートを育てる体づくり」というテーマで講話をいただきました。食事やストレッチなど実践的な内容だったため、大変好評を得ることができました。

最後になりますが、今回の受賞を励みに、今後も家庭、学校、地域の連携を深め、**やる気を伸ばし****む限**に**望と夢を育てる地域・学校を目指して**活動していきたいと思っております。

優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰

**やる気を伸ばし
む限に広がる
き望と夢を育てる地域・学校を目指して**

新庄市立八向中学校保護者と教職員の会会長 柏倉 誠

連携しながらあいさつ運動を行っています。

「環境部」は、春と秋の二回、地域の方にも案内を出しリサイクル品の提供に協力いただいて、資源回収を行っています。また、夏の親子奉仕作業では、校内の清掃や敷地内の環境整備などの作業を企画するなど、親と子それに教職員が一体となって

都度読み聞かせに関する研修を実施しています。そのほかの活動としては、平成三十年度はハーバリウムの作成を行い、作品は学校の文化祭で展示、紹介をしました。令和元年度はヨガのインストラクターをお招きし、ヨガ教室を開催しました。

学区内の三校で組織される三校PTA連絡協議会では、あいさつ運動、

東北ブロックPTA協議会会長表彰

活動を通して絆を深める山五小PTA

山形市立第五小学校PTA会長 柏倉 裕司

一、本校を取り囲む環境

本校は、大正十二年に第五尋常小学校として創立され、今年で創立九十六周年を迎えた。全盛期は千名を超える児童が在籍していたが、現在は二六〇名ほどで山形市内では中規模学校として定着している。

近年第五学区は、道路整備等の開発が進み交通量が増えつつあるが、山形大学や数多くの寺院が点在しており、木々に囲まれた静かな文教地区である。

そのような環境の中で、保護者や地域住民の方は青少年健全育成の関心が高く、学校教育活動の充実のために大きな支えとなっている。

二、特色ある取り組みについて

① PTAのテーマと会長の務め

本校の活動テーマは、近年「関わり合い」「繋がり」という言葉を取り入れていることで、PTA役員自ら活動を楽しもうという雰囲気を生み出し、役員選出が円滑に進んでいる。また、本校のPTA会長は、五学年保護者が担い、六学年時に顧問として全体をサポートすることで、次年度PTA会長の負担を軽減している。

② 地域との協働活動

本校の創立記念日に、地域に在住する音楽家やアマチュアミュージシャンによる音楽発表会「ふれあいステージ」を開催。身近な方に音楽の楽しさ・魅力を伝えていたでいており、子どもたちの憧れとなっている。

③ 第五学区夏祭り

毎年八月十五日は、本校を会場に子ども会育成連合会主催の夏祭りが開催され、多くのPTA会員がスタッフとして参加し、子どもたちと地域の温かい交流の機会を創出している。また、PTAで出店するB級グルメ「どんどん焼き」屋台は、会場の盛り上げに一役買っている。

④ 地域の方と交流する親子行事

昨年度二学期が、親子和菓子作りで乃し梅本舗佐藤屋八代目の佐藤氏、三学期の親子科学実験教室では、山形大学理学部の栗山教授、六学年の花笠祭りパレードの親子参加では、山形大学花笠サークル四面楚歌に講師を依頼。また、地元のお餅醬油店が農林水産大臣賞を受賞した際は、第四学年がお祝いを兼ね受賞した醬油で

芋煮会を開催するなど、地域の方との交流を促進している。

⑤ PTAの補完的役割「5GO（ゴーゴー）サポート隊」

保護者が、PTA活動以外に学校教育活動のサポートを行っている。スポーツ活動（初級水泳指導・指導補助）やプール監視の他、絵本の読み聞かせ、英語のアシスタントティチャー、登校指導など子どもたちが安全・安心に学校生活を送ることを目的として、学校全体の三割近くの保護者が登録している。

⑥ PTAの補完的役割「親父（おやじ）の会」

親父たちが得意分野を持ち寄り、子どもたちのために体験活動の企画・運営を行っている。これまでに、流しそうめん大会や地区のイベントへの協力、校舎三階の壁面にある山形県一大きな校章の研磨塗装、昇降口の下足箱のペンキ塗り、飼育小屋の屋根の修繕など無償で取り組んできた。また、本校を含む同じ山形一中学区の第八小学校と東沢小学校の親父の会との懇親会（飲み会）も楽しみの一つとし、交流の枠を広げている。

三、今後の課題と方向性

第五学区は、年々減少する児童数に伴いPTA会員数が減少している。「子どもたちに笑顔をも！大人たちに感動を！」を合言葉に、PTAに関わるすべての方が楽しみ、持続可能な取り組みを次世代に繋いでいくことが、普遍的な課題となっている。

そのような中でも、地域の方々と同窓会より温かい支援をいただいている。それを受け、我々現役のPTA会員一同は、子どもたちの身近な応援団という矜持を持ち、活動を楽しむ五小らしさを次世代に継承していくことが務めと認識している。今後も、地域と学校・各家庭を温かく結びかけ橋となるべく、より一層の充実を図ってまいりたい。

最後に、今般の優良PTA東北ブロックPTA協議会会長表彰は、他ならぬ諸先輩方をはじめとする地域の方々のご理解とお力添えがあったものと実感している。この場を借りて感謝申し上げます。

東北ブロックPTA協議会会長表彰

学校・公民館・地域との連携で、郷土愛を育むPTA活動

南陽市立梨郷小学校PTA会長 小関 康之

一、はじめに

本校は、置賜地方南陽市西部に位置し、地域の山「龍樹山」（りゅうじゅさん）の麓に広がる田園地帯にある全校生四十九名の小規模校である。

最近の少子化によるPTA会員数の減少に伴い、組織を見直し、コンパクトな組織へと変革してきた。また、公民館・地域との連携を図り、市の「地域総合型教育」を視野に入れた活動を行っている。

二、特色ある取り組みについて

（一）龍樹の里コンサートの実施

PTA文化部・公民館・教育後援会の共催事業として実施した。地域の皆様も交え、出演者の迫力ある演奏に、観客の一体感が生まれた。楽しいひと時の中で、児童は郷土への思いを深めることができた。

（二）PTA小中合同地区懇談会

地区ごとに、保護者・地区役員、教員が集まり、テーマに基づき、PTA育成部が中心になって話し合っている。話し合いでは、子どもたちの健全育成のために家庭と学校が共通理解して対応していくことの大切

さが確認された。

（三）読み聞かせボランティア

PTA文化部が中心となって、朝学習の時間に読み聞かせを行っている。読み聞かせを子どもたちは大変楽しみにしており、本の世界に触れ、豊かな心を培っている。

（四）心の交流プロジェクト

本校では、農作物栽培に取組んでおり、東日本大震災の被災地である宮城県塩釜市浦戸諸島へ収穫物を届けるボランティア「心の交流プロジェクト」を行っている。PTAとして運搬作業・交流活動の協力を行っており、ボランティア精神の育成と、防災について親子共に理解を深める場となっている。

三、成果と今後の方向性

公民館や地域との連携を深め、充実した活動を展開することができている。本校のPTAは、行事や会議への参加率も高く、皆で子どもを育てようとする意識がある。全会員の創意工夫を生かし、「郷土愛」に根ざしたPTA活動を展開していきたい。

日本PTA全国研究大会兵庫大会に参加して



山形県PTA連合会
副会長

草 薊 範 明

『つなげよう「いのち」のバトン 次世代を生き抜く子どもたちへ』のスローガンのもと、第六十七回日本PTA全国研究大会兵庫大会が八月二十三・二十四日に開催されました。

初日、私は淡路島を会場とした第五分科会（PTA広報活動）に参加しました。会場の「淡路島夢舞台」から見える穏やかな瀬戸内の海に、国生み神話によるその古代ロマンと、多くの参加者からの熱気が重なり、素晴らしい環境の中での分科会でありました。

基調講演者である臼井真氏は、九五年の阪神・淡路大震災により自宅が崩壊し、生まれ育った街の変わり果てた姿を見て衝撃を受け、『しあわせ運べるように』の楽曲を作詞・作曲され、神戸市内の小学校で音楽専科教諭を務めている方です。「歌うことは祈ること」と、

最初は神戸復興のためにと作ったこの曲は、やがて多くの被災地との交流から、その方々の心を捉え希望の灯となり、感動を呼び、海外を含めた被災各地での復興のシンボル曲となっていくます。子どもたちが仲間と共に歌い上げる力強さ、地域の方と共に支え合う美しさに、私は心打たれ涙しました。

二日目、神戸ワールド記念ホールで行われた全体会での、メンタリストのDaigo氏による講演も素晴らしいものでした。「子育ては、心理学でラクになる」と、早口な口調から（早口の方が人は集中しやすいのだそうです）、中学時代まで受けたいじめから、それを脱却した経験談を交え、圧倒的な知識と統計学を組み合わせたその内容は、非常に解りやすく、これからの子育てへの関わり方に関し、大変納得させられました。

現在、情報社会の発展や急激な社会情勢の変化により、保護者、学校、地域それぞれの子どもたちに対する価値観が多様化していることと思います。しかし、生きる根源としての「いのち」については、未来永劫変わるものではないでしょう。この全国大会への参加を通し、改めて「いのち」の大切さを再確認するとともに、この貴重な経験を次世代の子どもたちに繋いでいきたいと考えます。

日本PTA国内研修に参加して

しあわせ四班

上山市立南中学校 阿部 百花

三月二十七日、那覇空港に到着しました。山形よりはるかに暖かかったのですが、想像していたより暑くもなくちょうどよい気候でした。

フェリーに乗り、渡嘉敷島に着くとエイサーでお出迎えしてくれました。その日の夜は、班ごと分かれての活動で、私は方言の違いに驚きました。

二日目の平和学習では、戦争を体験した方に話を聞くことができ、戦争の恐ろしさを改めて感じることができました。午後は、海洋研修をしました。砂は白く、海は透き通っていて、ウミガメと泳ぐことができてとても感動しました。夜は島の方の課題を地元の中学生から聞きました。今は海に入る観光客が増加していて、日焼け止めの成分がサンゴを壊していることと知り、日焼け止め、雨が増加していることで作物がたべられ、雨が降ることで、土砂くずれが起きてサンゴ破壊につながっていることがわかりました。まずは、私や家族から環境にやさしい日焼け止めを使って自然の宝を守っていききたいと思いました。

三日目のワークショップでは、サーターアングイー作りをしました。名前の由来は砂糖はサター、油はアング、揚げることをアギーと言われているからだと言っていました。このお菓子は、たこ焼きのような形をしていて、ホットケーキのような味がしました。違う班の人と協力して作って楽しかったし、簡単だったので家でも作りたいと思いました。

私は、この五日間で、伝統文化や島の人の島を愛する心が海をきれいにしていることを学びました。また、沖縄は悲惨な過去もありましたがその過去を風化させないで、次世代に伝えることが今、私たちにできることだと思えます。私は人見知りですが最初はなかなか話せなかった四班の人とも最後はとても仲良くなれて良かったです。たくさん学んだこの貴重な時間は、私の一生の宝物です。

ありがとう

上山市立北中学校 土田 彩音

私はこの国内研修に参加し、たくさんの方を学び、体験しました。一日目は不安な気持ちで沖縄へ行きました。渡嘉敷村へ着くとグループリーダーが迎えに来てくれました。一班のリーダーはしんちゃん。不安な気持ちもしんちゃん笑顔でなくなりました。

最初にグループミーティングをして班のみんなが家族になると目標を決めました。その時から時間が経つのはあっという間でした。

二日目の平和学習で戦時中の集団自決について学び、野外炊事では班で協力してカレーを作り、きれいな海で自然にふれました。この二日間では班がひとつの家族に近づくことができました。特に野外炊事では、自分から動くということが求められ、班で協力することができたとします。三日月は村を散策したり、ワークショップ、それを発表する大交流会をしました。村のことを知り、たくさんの方と交流することができました。四日目は渡嘉敷とお別れし、最後のグループミーティングをしました。そこでみんなの思いをぶつけ合うことができました。

私はこの班のメンバーと出会い、研修ができて本当に良かったと思います。また、渡嘉敷村の人と交流し、村の人たちの渡嘉敷に対する郷土愛がすごいな思いました。私も自信を持って自分の町を自慢できるように町をよく知ってきたいと思えます。そしてこの研修で一番感じたことは、チャレンジすれば何でもできるということです。全員と協力して助け合うことができたらこんな素晴らしい研修ができたのだと思います。私たちはまだ一緒にいたい。そう思えるほど絆が深まりました。五日間の中で私にはもう一つの家族ができました。つらいことを全員で乗り越えられました。楽しいことは全員で楽しむことができました。この研修に参加できて本当に良かったです。この出会いと体験は、一生忘れません。

栄えある受賞 おめでとうございます

今年度、県PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績あげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。また、PTA広報紙も全国コンクールにおいて佳作入賞、奨励賞を受賞されました。誠にありがとうございます。（敬称略）

令和元年度文部科学大臣表彰（団体）

大江町立本郷東小学校PTA
庄内町立余目第二小学校父母と教師の会

令和元年度日本PTA全国協議会会長表彰

（団体）

山形市立第一中学校PTA
新庄市立八向中学校保護者と教職員の会

（個人表彰）

齋藤 秀和（前山形県PTA連合会副会長）
萩生田祐司（前山形県PTA連合会副会長）
宇野 尚（前山形県PTA連合会副会長）
小野寺良行（前山形県PTA連合会副会長）

令和元年度東北ブロックPTA協議会会長表彰

（団体）

山形市立第五小学校PTA
南陽市立梨郷小学校PTA

（個人）

高橋 秀司
（前山形県PTA研修大会実行委員長）
萩生田祐司
（前山形県PTA研修大会副実行委員長）
山口 敦史（前山形県PTA連合会理事）
芳賀 好治（前山形県PTA連合会理事）
金子 一志（前山形県PTA連合会理事）
涌井 洋一（前山形県PTA連合会理事）
竹田 博明（前山形県PTA連合会理事）
山口 順之（前山形県PTA連合会理事）
藤野 淳（前山形県PTA連合会理事）
大川 利幸（前山形県PTA連合会理事）
丹野 芳弘（前山形県PTA連合会理事）
海野 晋（前山形県PTA連合会監事）
鈴木 隆（前山形県PTA連合会監事）

令和元年度優良PTA山形県教育委員会表彰

小・中学校PTAの部

大江町立本郷東小学校PTA
山形市立第五小学校PTA
山形市立第一中学校PTA
上山市立宮川小学校PTA
新庄市立八向中学校PTA
真室川町立真室川北部小学校父母と教師の会

南陽市立梨郷小学校PTA
庄内町立余目第二小学校父母と教師の会
酒田市立新堀小学校PTA

高等学校PTAの部

山形県立東桜学館中学校・山形県立東桜学館高等学校PTA
山形県立左沢高等学校PTA

令和元年度第41回全国小・中学校PTA広報紙コンクール

日本PTA全国協議会（佳作）

南陽市立荻小学校PTA
酒田市立琢成小学校PTA

日本PTA全国協議会（奨励賞）

新庄市立沼田小学校PTA
鶴岡市立朝陽第三小学校PTA
酒田市立松原小学校PTA
酒田市立亀ヶ崎小学校PTA
米沢市立第四中学校教育振興会

山形県PTA連合会会長賞

上山市立宮川小学校PTA
大江町立本郷東小学校PTA
最上町立向町小学校PTA
長井市立長井小学校PTA
酒田市立十坂小学校PTA
遊佐町立遊佐中学校PTA

楽しい子育て全国キャンペーン三行詩コンクール

佳作 安部 美花 大塚小

令和元年度山形県PTA連合会会長表彰

感謝状（30年度県P連役員退任者）

齋藤 秀和	萩生田祐司	宇野 尚
小野寺良行	山口 敦史	芳賀 好治
金子 一志	涌井 洋一	竹田 博明
山口 順之	藤野 淳	大川 利幸
丹野 芳弘	佐藤 裕子	海野 晋
鈴木 隆		

表彰状（郡・市PTA連合会より推薦）

石澤 淳一	吉村 和武	宇野 正彦
奥山 清治	渡辺 明	武田 祐児
森 健一	豊嶋 法皇	八畝 良則
渡部 智也	齋藤 純	池田 幸一
佐藤 寿		

東北ブロックPTA研究大会へ参加して



西村山PTA連合会
母親委員長

最上 恵

令和元年度東北ブロック研究会及び山形県PTA研修大会が「つなげよう家庭・学校・地域を親も成長しよう子どもと共にふさ」とは国の本なり、育もう地域の宝を」を大会スローガンとして南陽・東置賜地区において開催されました。

東北六県から参加したPTA会員が六つの分科会に分かれ、それぞれの会場で基調講演とパネルディスカッションを通して研修を深めました。

私は、家庭教育「ポジティブな心で子どもに向き合う」をテーマとした第二分科会へ参加し、長井市で住職をされている小野卓也氏の話をお聴きしました。

子どもとのコミュニケーションの基本として、親がなりがちな「相手を尊重しないジャイアントタイプ」はダメ。「自分の意見を言えないのび太タイプ」もダメ。「相手の意見も自分の意見も

大事にするしずかちゃんタイプ」になってほしい。応用としては、ポジティブな言葉へ変換してみる。「疲れた」→「頑張った」「忙しい」→「充実している」と教えていただき、すぐ心の中で変換し「気分が違う」と感じました。講演の終わりに子どもと一緒に過ごせるのはあと何年？と質問され、改めて考えるとすごく短いなど。

パネルディスカッションでは、コーディネーター、パネリストの方のお話を伺い、子どもも一人の人として大切にすることや、間違いは子どもに対しても素直に謝るなど、パネリストの方の子育ての想いを強く感じました。

二日目は全体会のアトラクションとして、川西中学校郷土芸能クラブの小松豊年獅子踊りと赤湯小学校太鼓クラブの赤湯暴れ獅子太鼓の迫力に熱気を感じ、記念講演はデヴィ・スカルノ氏。スカルノ大統領との劇的な出会いと別れ、そして娘さんとの海外での生活の苦労話や人の三倍勉強して三倍努力して三倍働いて子育てしてきたと話されていました。色々な方のお話を聞き、子育てに正解はないけれど正しい方向に向かっていくことは、自分次第で変えていけると思えました。私の子育てもあと数年と考えると、今の時間がかげがえなく貴重な時間だと実感し子どもを益々愛おしく思えてきました。

このような盛大な大会へ参加させていただき、新たな気付きが沢山ありました。実行委員の皆様、企画運営ありがとうございました。来年度、東北大会は福島県で、山形県大会は酒田飽海地区で開催されます。是非ご参加ください。

山形県PTA連合会 安全互助会から

安全互助会は山形県PTA連合会事業の一環として運営されています。関係各位・保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

山形県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例

この条例は令和元年12月24日に公布されました。県、県民、事業者等が連携・協力することにより、自転車に関係する事故の防止を図ることを旨として行われます。その中の第12条（自転車損害賠償保険等への加入）は令和2年7月1日から施行されます。児童・生徒の補償については安全互助会でカバーされます。未加入の学校PTAは是非ご検討下さい。

安全互助会加入は学校PTAごとになります。補償の内容によってA・B・C・特A・特B・特Cの6コースがあります。

*児童・生徒の学校管理下外のけがや、偶発の事故での賠償事故を補償します。

*PTA行事中での会員（児童・生徒・保護者・教職員）傷害事故・賠償事故を補償します。

※近年の賠償事故の件数・支払金額増加傾向の対策として、賠償補償限度額1000万円のコースをおすすめします。

- ・安全互助会加入校のうち59%の学校PTAが特A・B・Cの賠償補償額1000万円のコースに加入されています。
- ・特に人身事故は医療費の全額が請求されたり高額になる場合があります。万が一の事故に備え是非ご検討下さい。

※子どもが自転車に乗るときはヘルメットを着用させましょう。

- ・傷害事故855件のうち68件が自転車に係る受傷です。ヘルメット着用は努力義務です。ヘルメット着用を習慣化し、子どもたちを重大事故から守りましょう。

※事故の未然防止が一番大切です。

- ・スポーツ活動中の事故が4割を占め最多となっています。指導者や保護者のご協力をお願いいたします。
- ・登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力下さい。



加入277校の内訳		
A	108	特A 153
B	5	特B 8
C	1	特C 2

傷害事故支払状況 (単位: 千円)				
年 度	件数	児童・生徒	件数	PTA傷害
平成28年度	1,240	11,749	53	2,848
平成29年度	1,168	11,394	49	2,649
平成30年度	1,111	9,973	47	2,741
令和元年度 (2.1.24現在)	855	8,005	35	2,161

賠償事故支払状況 (単位: 千円)		
年 度	件数	金額
平成28年度	71	3,411
平成29年度	76	5,351
平成30年度	67	3,862
令和元年度 (2.1.24現在)	64	3,432

第72回山形県PTA研修大会酒田飽海大会大会のご案内



大会実行委員長
園部 幸春

令和に入り、初めて新年を迎えた今年。第七十二回山形県PTA研修大会酒田飽海大会が、十月十日に開催されます。

ジオパークに認定された不思議の島、「飛鳥」を有する湊町酒田。自然豊かな「鳥海山」の麓、遊佐町。日本海に面した北庄内に位置し、特別支援学校を含む三十六の小中学校の連合会が主管として準備を進めております。

子どもたちを取り巻く環境は、日々変化しています。少子化に伴う学区再編や、地域とのつながりの変化、メディア等のネット依存、あふれる様々な情報、又、子どもの命に関わる様々な問題などです。

今回のテーマとして「人がつながる 地域とつながる 子どもたちの輝かしい未来のために」育もう 家族・学校・郷土への愛を掲げ、五つの分科

会の会場で行われます。

分科会は、①組織運営②情報機器対応 ③地域連携④家庭教育 ⑤環境づくりの五つです。

講師には、東北公益文科大学の吉村 昇学長を予定しております。公益大は、現在、様々なランキングの私立大で一位（東北・北海道地区）に選ばれております。公益学を学問とし、人・自然・地域を尊重しており、大学の理念と使命の中でも、教育・研究・貢献として「地域共創」があり、PTA活動も、地域とのつながりや連携を大事にしています。こうした観点から、地域での様々な問題や教育のあり方などについてお話ししていただけたらと思います。

最後に、今までの活動を通して、多くの方々との出会いや様々な形での協力、研修会等を通して学ぶ良い機会に恵まれ、子どもの成長とともに親として一緒に成長出来ればと思います。研修大会へは、大勢の皆さんからの参加をお待ちしております。

令和元年度 山形県PTA連合会役員名簿

会長	佐藤 博之	山形市PTA連合会	第六小	理事	押切 崇寛	東田川郡PTA連合会	余 目 中
副会長	船橋 吾一	山形市PTA連合会	蔵二小	理事	高見 佳澄	県P母親委員長	山寺小中
副会長	嶋貫 憲仁	東置賜地区PTA連合会	赤湯小	理事	菅原 美穂	県P副母親委員長	鶴岡三中
副会長	仲川 慎一	酒田飽海PTA連合会	亀ヶ崎小	理事	小関 広明	県中学校長会	附属中
副会長	草苅 範明	北村山PTA連合会	楯岡中	理事	半田 和彦	県連合小学校長会	高 畠 小
理事	土田 有尚	上山市PTA連合協議会	上山北中	幹事	尾形 吉則	山形市PTA連合会	会 計 士
理事	五十嵐彰宏	天童・東村山地区PTA連合会	天童二中	幹事	齋藤 徹	上山市PTA連合協議会	中 川 小
理事	國井 輝明	西村山PTA連合会	陵 東 中	幹事	土井 正路	県小中学校教頭会	山 寺 中
理事	鈴木 秀治	最上地区PTA協議会	新 庄 小	事務局長	村山 良光		
理事	川野 泰裕	米沢市PTA連合会	西 部 小	事務局員	佐藤 静子		
理事	遠藤 愛	西置賜地区PTA連絡協議会	小 国 小	事務局員	熊谷 慶子		
理事	難波 徹	鶴岡市PTA連合会	鶴岡一中				

御礼とお知らせ

今年度は、八月に兵庫県で日本PTA全国研究大会が開催され、また、九月には南陽東置賜で東北ブロック研究大会が開催され、県内から多くの会員の皆様から参加いただきありがとうございました。東北ブロックPTA研究大会を主管開催していただきました東置賜地区PTA連合会の皆様大変お疲れ様でした。

来年度は、日本PTA全国研究大会富山大会と東北ブロックPTA研究大会会津若松大会が予定されております。

どちらも日程調整の上、たくさんの参加が得られるよう準備方よろしくお願ひします。

さらには、令和四年度には日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます。具体的な準備がスタートしております。

県P連一丸となって全国からのPTA会員をお迎えし、共に研修を深めていきたいものです。重ねてご協力よろしくお願ひ申し上げます。

